

## 【経済・ビジネス研究科】

経済・ビジネス研究科は、経済およびビジネス社会におけるグローバル化、リージョナル化、情報化およびサービス化の変容と進展に対応していくために、経済・コマース・マネジメントそれぞれの分野における喫緊の課題を解決する能力の育成等を目標とする。また、本研究科は昼夜開講制の特色を活かし、本学の建学の理想である、「産学一如」の実現を目指しながら、福岡・九州の地域社会および産業界のニーズに対応できる実践的教育を通じた人材育成を教育理念および目標とする。

博士前期課程は、経済・コマース・マネジメントそれぞれの分野において活躍できる専門的職業人を養成する。博士後期課程は、これらの分野に関する高度な専門知識を備える専門的職業人及び研究者を養成する。

## 〈博士前期課程〉

## [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

学位授与方針は、研究者養成および専修コースそれぞれの履修方法等に基づいて単位を修得し修士論文又は課題研究報告書の審査に合格した者に対し、次の学位を授与する。

- (1) 経済学専攻は経済学分野とその関連分野の理論的および実証的な研究を行った内容の論文又は報告書について修士（経済学）を授与する。
- (2) 現代ビジネス専攻のビジネス・会計分野はこの分野とその関連分野の理論的および実証的な研究を行った内容の論文又は報告書について修士（商学）を授与する。
- (3) 現代ビジネス専攻のマネジメント分野はこの分野とその関連分野の理論的および実証的な研究を行った内容の論文又は報告書について修士（経営学）を授与する。

## [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

前述の学位の授与方針に掲げる理論的および実証的な研究を行わせるために、専攻分野に関する授業科目を体系的に編成し、講義、セミナー、演習等を適切に組合せた高度な授業と優れた研究指導を行う。

- (1) 経済学専攻では、グローバル化、リージョナル化、情報化およびサービス化それぞれの現状を把握し、理論に基づく科学的分析を遂行する技能を学生に教授する。そのために、経済学専攻のカリキュラムは経済学分野とその関連分野の諸科目で構成される。
- (2) 現代ビジネス専攻では、企業環境を意識して、ビジネスで競争優位を担うビジネスパーソン、マーケティング分野の専門的職業人、戦略的マーケティングにおけるICT活用人材の育成を目指す。そのために、現代ビジネス専攻のカリキュラムはビジネス・会計分野とその関連分野またはマネジメント分野とその関連分野の諸科目で構成される。また、多様な資格取得を目指す学生のため、学部授業科目と連携したカリキュラムで教育する。

## [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

本研究科では、国内外の大学および本学出身の学生を受け入れるだけでなく、リカレント教育の大学院研究科として、生涯学習やキャリアアップを目指す社会人や、資格取得を目指す学生など、広く多様な学生を受け入れていく。

教育理念および目標に基づき、次のような人を受け入れている。

- (1) 経済・コマース・マネジメントへの関心とその基礎的知識をもっている人
- (2) 経済・コマース・マネジメントに関する研究を通じて高度な専門知識とその実践的応用能力を身につけようとする意欲のある人
- (3) 修了後、関連分野において指導的役割を果たすことを希望する人

## 〈博士後期課程〉

## [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

博士の学位は、専攻分野でそれぞれ研究者として自立した研究活動をおこなう能力を習得した者、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる学識を有する者に授与される。学生は各領域のカリキュラムに基づく指導を受け、その成果（博士学位）を求められる。

## [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

前述の学位の授与方針に掲げる理論的および実証的な研究を行わせ、独創性を含む内容の論文を作成させるために、専攻分野に関する授業科目を体系的に編成し、講義、演習等を適切に組合せた高度な授業と優れた研究指導を行う。

- (1) 経済・ビジネス専攻の経済学領域「経済学分野」は、経済理論と応用経済学中心のカリキュラムで構成されており、学生は高度研究の指導を受けることができる。
- (2) 現代ビジネス領域の「ビジネス・会計分野」ではマーケティング論、流通情報論および財務会計など、「マネジメント分野」では、経営理論、国際経営システムおよび計量経営学などを中心としたカリキュラムでそれぞれ構成されており、学生は高度研究の指導を受けることができる。

## [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

博士後期課程では一専攻で、「研究者養成コース」と「社会人特別コース」を設けている。研究者養成コースは博士前期課程から5年間の一貫教育の指導を受ける学生の受け入れ、社会人特別コースは、企業等の在籍者、研究機関等の研究員および大学等の教員として教務経験と研究実績がある社会人の受け入れを行う。

教育理念および目標に基づき、次のような人を受け入れている。

- (1) 経済・コマース・マネジメントへの関心とその深い専門的な知識をもっている人
- (2) 経済・コマース・マネジメントに関する研究を通じて、より最先端の知識とその実践的応用能力を身につけようとする意欲のある人
- (3) 修了後、関連分野において研究者、あるいは専門的職業人として主導的役割を果たすことを希望する人

## 【工学研究科】

建学の理想である「産学一如」の実現を目指し地域、社会および産業界の要請に対応するため、また、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた取組を実施するため、物事を総合的な観点からとらえ、人・社会・地域に受容されかつその発展に貢献できる産業技術を創出し、展開できる人材の養成を目指している。

### <博士前期課程>

#### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

各研究分野における基本的な学識はもとより、隣接および関連分野における学識を有し、産業技術デザイン領域において将来にわたって社会的な貢献ができる能力を身につけ、本課程修了に必要な30単位以上を取得し、かつ修士学位論文または特定の課題を作成し審査に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。

#### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

「機械システム分野」、「電気情報技術分野」、「物質生命化学分野」、「土木デザイン分野」、「建築デザイン分野」の5の研究分野のいずれか1つの研究分野を拠点としつつ、必要に応じて他の4研究分野における教育を受け、幅広く学識を身につけることができるカリキュラム構成とする。また、地域社会および産業界の要請に対応するため、従来の研究開発能力の養成を目的とする教育プログラムに加え、実践力および応用力を養成する大学院共通科目として高度基盤研究およびプロジェクト実践演習に代表される高度プロジェクト型研究科目を設置する。

#### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

ものづくりの基本となる理数系科目の学力を有し、身につけた学識をSDGs達成に向けたグローバルかつユニバーサルな取組および社会や産業界において発揮することについて強い意欲を持ち、目的意識を持って時代を切り開く意志を持つ者を受け入れる。このため、本学の卒業生のみならず、他大学からの進学者、社会人、留学生も積極的に受け入れる。

### <博士後期課程>

#### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

工学の専門分野における高度な研究開発能力もしくは大学（大学院を含む）の教育課程において専門教育を担う能力を身につけ、本課程修了に必要な10単位以上を取得し、かつ博士学位論文を作成し審査および試験に合格した者に博士（工学）の学位を授与する。

#### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

高度な専門知識および高度な研究開発能力を養成するため、前期課程を構成する5研究分野を統合した産業技術デザイン分野を設置する。段階的に知識および能力を養成するため、1年次および2年次に各研究指導教員が担当する「特別演習」を配当し、3年次に研究成果をまとめて博士学位論文を作成するための「特別研究」を配当する。なお、本課程は昼夜開講制をとり、社会人に配慮した教育研究指導を行う。

#### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

先駆的かつ高度で専門的な工学の研究を目指すにふさわしい基礎的な研究能力を持ち、研究対象に対する旺盛な探究心と研究遂行に強い意志を有する者、SDGs達成に向けたグローバルかつユニバーサルな取組および社会や産業界における実践的な活動の経験に立ち、真理を探求する強い意志を有する者を受け入れる。

## 【芸術研究科】

芸術研究科は、21世紀の知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材など、多様化する社会に応えられる有為な人材を育成することを目標としている。前期課程は、学部における芸術諸分野の専門的な教育との繋がりに配慮しつつ、専門性と学際性の両立のできる美術研究者、アーティスト、デザイナー、クリエイター、写真家、映像作家の人材育成を目標に高いレベルの教育を行う。後期課程は、現代の芸術文化を担う高次元の研究者とアーティスト、ジェネラリスト、プロデューサー、教育研究者の養成を目標としている。

### <博士前期課程>

#### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

芸術諸領域における専門的な知識・技術はもとより、それらを社会の様々な場面で活用する能力、研究に裏打ちされた思考力・判断力・表現力を修得し、①芸術表現、デザイン、写真・映像などの領域で個性的、革新的な作品を創造できる、②産業社会と連携した制作活動などを実行できる、③専門的な知識、技術を生かして教育職、学芸員等の資格を取得するなどの成果を上げかつ修了制作、学位論文（研究指導教員の指導により作品を加えることができる）の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。

#### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

芸術の新しい課題に対応できる個性と感性および創造力や表現力を培い、多様な芸術領域でリーダーとして中心的役割を担う人材の輩出を教育目標に、芸術表現、デザイン、写真・映像の3つの専門領域を設け、全研究科共通科目のほか、①3つの専門領域の共通科目である芸術表現理論、②領域毎の必須科目として総合研究と応用演習、③選択科目として特定演習、特殊演習、④領域を横断して幅広い学びを行う超域演習で教育課程を編成している。学修成果の評価は、試験やレポートのほか、展覧会、コンペティションの応募数、入賞数、参加した研究プロジェクトの数やアウトプットの質、取得した資格、TOIEC等の点数、ポートフォリオの内容等で行う。

#### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

芸術研究科は、21世紀の多様化する社会の要求に芸術の分野で応えることのできる人材を養成することを目標に、展覧会やコンペティションの受賞歴などから、アーティストやクリエイターとしての潜在能力に優れ、将来性が高いと判断される者、学業成績に優れ学部においてプロジェクト活動などに積極的に参加した経歴などから、デザイナーやプロデューサー、研究者や教育者として高い資質を持つ者で、本学および他大学の芸術系の卒業生、民間企業・研究機関の在籍者、外国人留学生、一般社会人など多様な人材を受け入れる。

### <博士後期課程>

#### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

芸術諸領域における高度な創作能力、研究・開発能力、教育能力等を有し、未来の芸術文化を担う豊かな学識を身につけた人材の養成を目標としている。博士の学位は、本課程修了に必要な所定の単位を修得し、かつ学位論文（研究指導教員の指導により作品を加えることができる）の審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。

#### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

芸術表現、デザイン、写真・映像の3領域の創作研究、理論研究に必要な専門的・横断的な知識・技術を獲得し、21世紀の多様化する社会の要求に応えることのできる能力を養成する。教育課程は、①3領域の専門性を深耕し高度な研究に繋げる共通科目、②専門分野における高度な創作研究、理論研究を実践する特論研究、③博士論文の作成等を学ぶ論文指導の体系的なカリキュラムを編成している。課程修了には、共通科目から2科目4単位、研究領域の特別研究12単位の修得が必要条件となる。

#### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

芸術諸領域における専門的、横断的な知識・技術を有し、高次のアーティストや研究者として、芸術文化を担う強い意志を持った人物を受け入れている。実技系では個性的、革新的な作品を創造する資質を、理論系では社会の様々な問題を論理的に解決する資質を求めている。入学者の選抜では、修士課程や実社会での活動内容から、実技系、理論系に必要とされる資質や能力、知識や技術等について審査を行う。本学芸術研究科の他、他大学大学院修了者、民間企業・研究機関の在籍者、外国人留学生、一般社会人など多様な人材を受け入れている。

## 【国際文化研究科】

現代のグローバル化社会において文化・教育研究、臨床心理学の各分野で活躍できる人材の育成を目指している。国際文化研究分野では、日本・アジア文化、欧米文化、教育に関する深い知識を身につけた専門的職業人や研究者、教員の育成を図っている。臨床心理学研究分野では、現代社会のニーズに応じた幅広い領域での心理的ケアを行える実践家と研究者の養成に力を注いでいる。

### <博士前期課程>

#### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

研究分野の専門性を通して、現代社会に研究者や高度専門職として貢献できる人材の養成を目標としている。国際文化研究分野では、英語・国語・社会等の中学・高校教員の専修免許状を取得することができる。臨床心理学研究分野では、公認心理師、臨床心理士の各受験資格が得られ、合格した者はそれぞれ公認心理師、臨床心理士になることができる。修士学位の授与は、各研究分野における、幅広く、かつ専門的な知識に基づく独創的な論考を、客観的評価に耐えうる修士論文としてまとめ、論文審査等の最終試験に合格することが要件である。

#### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

日本・アジア文化、欧米文化、臨床心理の諸研究・実践に必要な知識と技術を涵養し、実証的・独創的研究および高度専門職としての実践に必要な能力を養成する。世界や日本の思想・文芸・歴史・心理等に関する深い理解のみならず、語学力を含めたコミュニケーション能力と実践力を身に付けさせる。各研究分野で、研究者や高度専門職として必要とされる能力を身につけることのできる体系的なカリキュラムを編成している。課程修了には、国際文化研究分野では30単位以上、臨床心理学研究分野では38単位以上を修得することが必要条件となる。

#### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

世界や日本の文化、および人間心理に関心を持ち、これらを専門的に学ぶ意欲のある人物を受け入れている。自ら研究課題を発見し設定する能力や、他者を説得できる論理的な表現能力を求めている。入学者の選抜では、専門分野の基礎知識、外国語能力、研究分野での考察力、基本的なコミュニケーション能力等について審査する。他大学からの入学希望者、社会人、留学生等にも積極的に門戸を開いている。

### <博士後期課程>

#### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

研究分野の高度な専門性を通して、自立した研究者や高度専門職として現代社会に貢献できる人材の養成を目標としている。博士学位の授与は、各研究分野における、高度に専門的な知識に基づく実証的・独創的な論考として、学界に貢献しうる博士論文としてまとめ、優れた研究者、実践者として活動できる能力を示し、口頭試問、公聴会等の審査に合格することが要件である。

#### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

日本・アジア文化、欧米文化、臨床心理の諸研究・実践に必要な高度な知識と技術を涵養し、実証的・独創的研究および高度専門職としての実践に必要な優れた能力を養成する。世界や日本の思想・文芸・歴史・心理等に関する深い理解に基づく、各研究分野に関する俯瞰的な知識体系の構築および高度な研究能力のみならず、語学力を含めた高度なコミュニケーション能力と実践力を身に付けさせる。各研究分野で、研究者や高度専門職として自立し、優れた成果を挙げるために必要とされる能力を身につけることのできる体系的なカリキュラムを編成している。課程修了には、12単位以上を修得することが必要条件となる。社会人学生等のために長期履修制度を設けており、履修機会の確保に取り組んでいる。

#### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

世界や日本の文化および人間心理に旺盛な探究心を持ち、自立した研究者・高度職業人として強い意志を持って研究遂行できる人物を受け入れている。自ら発見した研究課題について、資料やデータを収集・分析し、論理的に考察・表現でき、優れた研究・実践者となることのできる資質を求めている。入学者の選抜では、修士論文等の内容から、論文作成能力、考察力、博士課程での研究・実践に必要とされる知識、技術等について審査を行う。他大学からの入学希望者、社会人、留学生等にも積極的に門戸を開いている。

### 【情報科学研究科】

「社会と人間のためのIT（情報技術）」を教育研究の理念とし、高度情報社会の諸問題に対応出来る高度専門職業人および研究開発者の育成を目標としている。特に、我が国が目指す超スマート社会を支える情報システムを構築できる技術と展望を持った人材や人間の本質である知的処理能力をコンピュータで実現あるいは支援する技術を開発できる人材を育成する。この目標達成に向け、前期課程は、情報科学・情報技術を基礎から応用まで深く修得し得る教育を行い、後期課程は、高度情報社会の発展を担い得る高度の研究開発能力や問題解決能力を養う教育課程を編成している。

#### <博士前期課程>

##### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

学位（修士）は、情報科学・情報技術を基礎から体系的に履修した、広い視野に立った高度な専門職業人および研究開発者として活動できる基礎力・応用力を修得した者に授与する。修了認定基準は、所要科目を30単位以上修得し、学位（修士）論文の審査および最終試験に合格することとする。

##### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

「社会と人間」を意識する、広い視野に立った高度な専門職業人および研究開発者を育成するため、学生自身の研究分野ならびに関連分野以外の内容も幅広く履修する教育カリキュラムを編成する。また、遠隔授業や昼夜開講制を取り入れ、企業技術者や情報教育担当者などの社会人が継続して学べる機会を提供し、最先端の情報科学・情報技術を理解・応用できる人材を育成できるカリキュラムを編成する。

##### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

情報科学・情報技術に関する基礎知識及び英語や日本語によるコミュニケーション力を有し、高度情報社会を支える強い意欲のある者を受け入れる。このため、情報分野の学部教育を受けてきた従来型の進学者のみならず、情報分野以外の学部教育を受けてきた進学者や企業技術者、中等初等教育担当者、高等教育機関の教職員も対象とする。

#### <博士後期課程>

##### [学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）]

学位（博士）は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する者に授与する。修了認定基準は、所要科目の単位を修得し、学位（博士）論文の審査および最終試験に合格することとする。

##### [教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）]

高度な研究活動を自立的に行う人材を育成する。学生は1年次～3年次において「情報科学特別セミナー」および各研究指導教員が担当する「情報科学特別研究Ⅰ」、「情報科学特別研究Ⅱ」を履修し、博士学位取得を目指しての研究および学位論文作成を行う。なお、遠隔授業や昼夜開講制を取り入れ、社会人学生の事情に配慮した教育研究指導を行う。

##### [入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）]

情報科学・情報技術の基礎から応用までの広範な知識と能力を有し、研究対象に対する旺盛な探求心と研究遂行に強い意志を持つ者を受け入れる。このため、博士前期課程からの進学者のみならず企業等の研究開発機関で現在活躍している中堅研究開発者も対象とする。